

## 話すこと・やり取りを楽しむ児童の育成を目指して

新潟市立新関小学校 教諭 小海 絵美（平成16年度）

### 1 主張

本研究を通して目指す児童は、「話すこと・やり取りを楽しむことができる児童」である。児童は、外国語科の授業において、ゲームや歌、発音の場面では意欲的に取り組んでおり、外国語科の時間を楽しみにしている。しかし、英語を使ってやり取りをする場面では、自分の話す英語に自信がもてず、声が小さくなったり一問一答で会話が終わったりする消極的な姿勢が見られる。学習した英語を使って自信をもってやり取りができれば、英語を話せる喜びを実感でき、より外国語を学ぶ楽しさが増えるだろう。本研究では、児童が「自分の言ったことが通じた。」「相手の質問に答えることができた。」と喜びを実感し、話すこと・やり取りを楽しむことができるようにするために、ALTとのインタラクションに必要な表現を児童自らが獲得していく単元構成に重点を置いて研究を進める。

### 2 研究主題設定の理由

学習指導要領の小学校「外国語科」目標（2）において、「コミュニケーションを行う目的や場面・状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる力を養う。」と示されている。また、英語の目標及び内容等の（3）話すこと〔やり取り〕では、イ「日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。」と示されている。ここでの〔やり取り〕とは、自分の考えや気持ちなどを一方的に伝えるのではなく、相手意識をもって相互的に伝え合うことが重要であると言える。また、「その場」で質問をしたり質問に答えたりする即興的な相互対話が目指されるものである。

主張でも述べたように、これまでの外国語科の授業を通して、児童は、ゲームや歌、発音の場面では積極的に取り組むことができる。しかし、英語を使ったコミュニケーションを図る場面では、声が小さくなったり例文通りの一問一答のやり取りで終わってしまったりすることが多い。どう伝えたらいいかわからず、消極的になってしまうのだろう。そのため、「英語を使って会話をした。」という実感がなく、達成感もなかったのだと言える。令和5年7月、令和6年5月に、「外国語科の授業に関するインタビューを行った。インタビューでは、「外国語科の授業について感じていること」を自由に話してもらった。児童から出た意見は以下の通りである。

インタビュー対象児童 新潟市立新関小学校 令和5年度5年生（9名） 令和6年度5年生（6名）

- 外国語の授業は楽しい、楽しみだ。(R5 9/9名 R6 6/6名)
- 外国の文化について知ることが楽しみだ。
- ALTや6年生、学校の先生と英語で話すのが楽しい。英語を話せる人とたくさん話したい。
- クラスの友達と一緒に歌を歌ったり発音したりするのが楽しい。
- 将来、新潟に旅行に来た外国の人に英語でおすすめの場所を紹介してあげたい。
- 将来、いろいろな国を旅行して世界の人々と友達になりたい。
- ▲ ALTの話の聞いたりみんなで歌を歌ったりするのは好きだが、英語で話をするのが苦手だ。
- ▲ ALTと話すときに緊張して何を言えばいいかわからなくなる。
- ▲ 聞きたいことはあるけれど、英語で質問するのが苦手。
- ▲ 友達やALTと英語で話すときに何とえばよいかわからないときがある。

インタビューの中で、「外国語の授業は楽しい」と思う児童は、100%であり、全ての児童が外国語の授業を楽しみにしていることがわかった。また、多くの児童が、これから外国語を使ってやってみたいことや挑戦したいことなど、将来への希望を話していた。このインタビューを通して、児童の中には、「もっと英語を話したり聞いたりしてコミュニケーションを図りたい。」という前向きな思いがある一方、英語を話したり聞いたりすることに不安感を抱いている児童もいることが分かった。自信をもってコミュニケーションを図るような手立てを講じれば、児童がより英語を話したり聞いたりする喜びを感じられるようになると思う。そのために、ALTとのインタラクションに必要な表現を児童自らが獲得していく単元構成をしていくことを考えた。

### 3 研究仮説

ALTとのインタラクションに必要な表現を子ども自らが獲得していく単元構成をしていくことで、児童は、自信をもってコミュニケーションを図ることができ、話すこと・やり取りを楽しむことができるだろう。

### 4 研究の内容及方法

#### (1) 研究内容

- ① GoodモデルとBadモデル動画をもとにした話合いの場の設定
- ② 他者評価（児童間で良さや改善点を伝え合う場の設定）

#### (2) 研究方法

令和5年度5年生（9名）と令和6年度5年生（6名）に対して、研究仮説に基づく実践を行う。

- <検証方法>
- ① 単元ゴールでの児童のやり取りの様子（量的・質的な変化）
  - ② 授業後の振り返りの記述やインタビュー

## 5 研究の実際

### (1) 実践1 (令和5年10月実施 5年生9名)

i) 単元名：Unit 6 What would you like?

「Welcome to OKEZEN Restaurant! グレグ先生におすすめのメニューを紹介しよう」

ii) ねらい：相手の好みなど他者に配慮しながら、ていねいな表現を使って注文したり会計したりすることなどについて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合うことができる。

iii) 単元の流れ

○単元のゴール『グレグ先生に日本の料理のおすすめメニューを紹介しよう。』

・「イギリスから来る友達に紹介するために新潟県以外の都道府県のおすすめの料理を知りたい。」というALTの思いを知る。

・日本の様々な料理について調べ、味や特徴などを既習表現や新出表現を使って伝えられるようにする。

・レストランの店員と客に分かれて、おすすめ料理を紹介し合う。(児童間やALTとのやり取り)

	Bad モデル視聴と前時の気づき	学習課題	話し合い・Goodモデル動画=やり取りに活かす内容
第4時	<p><b>内容面</b>：あいさつをしていない・What would you like?ばかり聞いている・お客様の言葉に答えていない</p> <p><b>表現面</b>：店員が不愛想・目を見ていない・反応がうすい →お客様がいい気分にならない。</p>	<p>「お客様に気持ちよく注文してもらうには、どんなふうに話したらよいかな。」</p>	<p><b>内容面</b>：はじめとおわりのあいさつをする。(Hello./Thank you.)・What would you like?だけでなく、</p> <p><b>表現面</b>：目を見て笑顔で接客する・相手が答えたら反応する 反応=OK・繰り返す</p>
第5時	<p><b>内容面</b>：あいさつや返事はしているが、相手が迷っている(だまっている)のに気づいていない・早く注文を聞きかたがっている</p> <p><b>表現面</b>：目を見て相手の言葉に反応はしているが、思いやりがない感じがする →お客様がメニューに迷っているのに気づいていない。思いやりがない。</p>	<p>「お客様が注文に迷った時には、どのように話したらよいかな。」</p>	<p><b>内容面</b>：相手の答えを待ってあげる・メニューに迷っているから、おすすめ料理を紹介する・好きな食べ物を聞いてみる</p> <p><b>表現面</b>：相手の様子をよく見て、メニューに迷っていないか考える・笑顔で安心させる(焦らせない)・笑顔・反応=繰り返す、Nice choice, Good.などほめる</p>

iv) 単元の手立て

#### ① GoodモデルとBadモデルの動画をもとにした話し合い

はじめにBadモデルの動画を視聴し、Badモデル中の客の困り感について考える。また、前時のやり取りやGoodモデル動画視聴を通して気付いたことも出させる。モデル動画の視聴と前時のやり取りでの気づきから設定された学習課題と話し合いで出た考えは、以下のとおりである。

#### ② 他者評価

学習課題について話し合ったことから、自分のやり取りに取り入れたいことを選ばせる。授業後半の児童間のやり取りの場面で、自分で選んだ内容や表現の仕方について、アドバイザー(児童)から見てもらい、良くできたところや改善点を伝えてもらう。→他者評価(話し合い・アドバイスカード)

<A児の単元のゴール ALTにおすすめの料理を紹介する様子> 部は評価に値する既習表現・新出表現

<p>A児 Hello. ALT Hello. A児 What would you like? ALT I like Ramen. A児 This is Hakata Ramen. It's nice, very delicious, good. ALT OK. One Hakata Ramen. A児 Yes. What would you like? ALT One Hot coffee. A児 Hot coffee. Yes. What would you like? ALT What's dessert? A児 This is "Menbei". ALT What's taste? A児 It's sour, very delicious. ALT One Menbei. A児 Yes. ALT How much is it? A児 One Hakata Ramen, 9 yen. ALT 9yen? A児 900 yen. ALT OK. A児 Menbei, 100 yen. Hot coffee, 50 yen. Total 1050 yen. ALT OK. A児 Thank you.</p>	<p>★A児について 外国語の授業は好き(特にALTの話聞くことや外国の文化を知ること)だが、英語で話すことは苦手。 ★本単元では、九州地方の料理を調べ、福岡県の料理についてALTに紹介したいという思いをもった。 ★話し合い後、A児がやり取りに取り入れたいと思ったこと ○おすすめ料理を教える ○何が好きか聞く ○どんな味かを伝える ○相手が答えるのを少し待ってあげる(相手の話をよく聞く) ★アドバイザーからの助言後の自分のめあて ○どんな味か説明できるようにしたい ○しっかり反応して聞きたい ○目を見て話したい ★ALTとのやり取りの後のA児の振り返り 「グレグ先生は、ラーメンが食べたいと言ったので、博多ラーメンをおすすめしました。博多ラーメンはおいしいと伝えました。「めんべい」の味は難しかったけど、It's sour.と伝えることができました。福岡の食べ物を知ってもらえてよかったです。」</p>
--	--

A児は、外国語を話すことに自信をもてていなかったが、具体的(どの場面で何を伝えたらよいか・どんな言い方をしたらよいか)に自分のめあてをもつことや友達から改善点や良さの助言をもらったことで、自分のがんばりや良さに気付くことができました。やり取りの回数を重ねるごとに自信をもって英語でやり取りすることができるようになってきた。ゴール場面では、自分で決めためあてを意識しながら、相手の目をよく見ながら自信をもって話をしたりする姿が見られた。一方、アドバイスがその場限りであったため、振り返りやその時間のやり取りには改善点を生かしても、ゴール場面で言い方や改善点を忘れてしまう児童も見られた。

(2) 実践2 (令和6年7月実施 5年生6名)

i) 単元名: Unit 3 Can you play dodgeball?

「グレッグ先生に自分のことを伝えよう」

ii) ねらい: 相手のことをよく知るために、できることについて聞き取ったり伝え合ったりすることができる。

iii) 単元の流れ

単元のゴール『自分の好きなことやできることについてグレッグ先生と伝え合ってより仲良くなる。』

- ・ALTの「5年生のみんなのことをもっとよく知りたい。」という思いを知る。
- ・自分のことをもっと知ってもらうためには何を伝えたらよいかを話し合い、学習課題につなげる。
- ・既習表現や新出表現を使い、自分のことを話したり相手に質問したりする。(児童間・ALTとのやり取り)

iv) 単元の手立て

① GoodモデルとBadモデル動画をもとにした話し合い

ALTの思いを聞いた後、「ALTに自分のことを知ってもらうためには、どんなことを伝えたらいいのか。」について学級で話し合った。児童からは、「自分の好きなものや苦手なものを伝える。」「自分の得意なことを伝える。」「ALTにも質問すれば、お互いのことを知れてもっと仲良くなれると思う。」といった考えが出た。

その後、児童から出たやり取りの内容を構成・整理していく中で、やり取りのモデル動画を見せ、良さや改善点を考えさせた。

Badモデル動画視聴と前時の気づき	学習課題	話し合い・Goodモデル動画=やり取りに活かす内容
<p><b>内容面:</b> いきなり質問している・質問ばかりしている</p> <p><b>表現面:</b> →急いでいる感じ・相手が答えているのに反応がない</p>	<p>「お互いに気持ちよく質問したり答えたりするにはどうしたらよいかかな。」</p>	<p><b>内容面:</b> はじめとおわりのあいさつをする (Hello./Thank you.)・はじめに自分のことを伝えるとよい (I like ○○. Do you like~?/How about you?)</p> <p><b>表現面:</b> 相手が答えたらちゃんと反応する (Nice./Good./Me too./I see./Wow.) ゆっくり相手の目を見て話す、聞く</p>

②他者評価

学習課題について話し合ったことから、自分がやり取りに取り入れたいことを選択する時間を設けた。後半の児童間でのやり取りの中で、自分が選んだ内容や表現の仕方について、アドバイザー(児童)から見てもらい、良くできたところや改善点を伝えてもらう。実践2では、タブレット端末を活用し、やり取りの様子やアドバイスの様子を動画に撮り、端末上の振り返りカードに動画を貼り付けて、自主練習や次時のやり取りに活かせるようにした。

<B児の単元のゴール ALTに自分のできることを伝えたり質問したりしてやり取りする様子>

部は評価に値する既習表現・新出表現

<p>B児 Hello. What animal do you like? ALT I like elephants. B児 Elephant? Oh, I like snakes. I don't like alligators. ALT Ah, OK. B児 How about you? Do you like snakes? ALT No, I don't. I don't like snakes. B児 I can cook. I can't play volleyball. How about you? Can you cook? ALT Ah...Yes, I can. B児 Good. What animal do you like? ALT I like cats and dogs. B児 Oh, I like cats and dogs. I don't like animal. (What animal don't you like?) ALT I don't like snakes and sharks. B児 Sharks? Me too. Thank you.</p>	<p><b>★B児について</b> 外国語の授業で歌を歌ったりゲームをしたりすることは好きだが、英語で話すことに苦手意識をもっている。特に英語で質問することに不安感がある。</p> <p><b>★話し合いの後、B児がやり取りに取り入れたいと思ったこと</b> ○質問するだけではなく自分のことも伝える。 ○相手の話に反応して聞く。</p> <p><b>★アドバイザーからの助言後の自分のめあて</b> ○いきなりできることを聞くのではなく、相手の好みを聞く。その後自分の好きなことやできることも伝える。 ○相手の話に反応して聞く。</p> <p><b>★ALTとのやり取りの後のA児の振り返り</b> 「私が気を付けたところは、急にCan you~?と言わずに、好きな動物などを聞いたり伝えたりしてからできることは何かを聞くようにしたところです。グレッグ先生が言ったことに反応して聞くことががんばりました。はじめの頃よりもたくさん質問できるようになったのでうれしいです。(中略)もっと英語で話したいです。」</p>
--	---

B児は、「英語で質問するのが苦手」という困り感をもっていた。5年生5月の英語でのやり取りの場面では、質問と答えの一問一答で終わっていた。本単元で、動画比較をもとにした話し合いから考えた自分のめあてを意識したり友達からのアドバイスを参考にしたりしたことで、5月に比べてやり取りの中での単語や表現の数が増加してきた。また、既習表現の言い間違い(部)も減っていることが分かる。

5月のALTとのやり取り	単元のゴールでのALTとのやり取り(7月)
<p>ALT Hello. B児 Hello. ALT Do you like basketball? B児 Oh, yes. Yes. Basketball. ALT Umm. Do you like soccer? B児 No, soccer. ALT So, what food do you like? B児 I like Ramen? ALT Oh, I see. Do you like sushi? B児 Yes. (担任 I do) I do sushi. ALT Do you like natto? B児 Yes. You like natto.</p>	<p>B児 Hello. What animal do you like? ALT I like elephants. B児 Elephant? Oh, I like snakes. I don't like alligators. ALT Ah, OK. B児 How about you? Do you like snakes? ALT No, I don't. I don't like snakes. B児 I can cook. I can't play volleyball. How about you? Can you cook? ALT Ah...Yes, I can. B児 Good. What animal do you like? ALT I like cats and dogs. B児 Oh, I like cats and dogs. I don't like animal? =(What animal don't you like?) ALT I don't like snakes and sharks. B児 Sharks? Me too. Thank you.</p>

## 6 仮説に対する手立ての考察と結論

これまでの2つの実践をまとめる。目的意識をもたせる場の設定(単元のゴール)をした後、「そのために何ができるようにすればよいか」について全体で話し合う時間をとること、それをもとに自己評価・他者評価を行いながらやり取りを重ね、ゴールへの見通しをもって取り組ませた。

	R5年度 5年生	R6年度 5年生
単元のゴール	グレッグ先生におすすめの料理を紹介しよう。	グレッグ先生に自分のことを知ってもらって仲良くなるよう。
モデル動画をもとにした話し合い	・Badモデル動画から改善点を考える。 ・本時の学習課題についての話し合いを行う。 ・話し合いで出た考えやGoodモデル動画からの気づきを授業後半のやり取りの場面で活用する。	・Badモデル動画から改善点を考える。 ・本時の学習課題についての話し合いを行う。 ・話し合いで出た考えやGoodモデル動画からの気づきを授業後半のやり取りの場面で活用する。
他者評価	・話し合いで出た考えから自分のめあてを選択する。 ・アドバイザーから良さや改善点を教えてもらう。(話し合い・チェックカードの活用)	・話し合いで出た考えから自分のめあてを選択する。 ・アドバイザーから良さや改善点を教えてもらう。 ・やり取りやアドバイスをもらう場面をタブレット端末に記録し、繰り返し視聴して練習に活かす。(タブレット端末上の振り返りカードの活用)

### ★抽出児(B児)の変容からわかったこと

5月の様子	単元の終わりの様子
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語への意欲→やり取りの場面では意欲が低い。</li> <li>・単元はじめのやり取り→質問—答えの一問一答のやり取りが多い。また、何と質問すれば良いかわからず、やり取りが続かない。既習表現の言い間違いが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールに向けて意欲が高まっていた。</li> <li>・ゴールのやり取りの場面→内容面(単語数ややり取りのターンの回数)や表現面(反応やジェスチャー等)の向上が見られた。</li> </ul>

### ①GoodモデルとBadモデル動画をもとにした話し合い

デジタル教材やALTと教師のモデル動画を視聴し、内容を推測したり表現を繰り返し聞いたりすることは、新出表現を学ぶ必要感につながっていた。また、モデル動画の検討・比較から思考のズレが生じ、児童から学習課題を考えるきっかけになっていた。学習課題についての話し合いから、自分のやり取りの場面でどの表現を使ってどのように伝えるかを考えたり、前時の自分のやり取りでの良さを引き続き取り入れたりするなど、やり取りの場面でめあてを持って取り組む姿につながっていた。

### ②他者評価

アドバイザー役(他者評価)を設けたことにより、自信につながったり改善点を次回のやり取りに生かしたりする児童が増えた。さらに、相手の良さを真似て、自分のやり取りに活かそうとする姿も見られた。実践2でタブレット端末を活用したことで、自分のめあてや振り返り・やり取りの動画などを一目で見直すこともできた。これにより、繰り返し練習することができ、ゴール場面に向けての意欲の高まりにつながっていた。



以上の検証と考察から、私は本研究について、以下のように結論付けた。

- GoodモデルとBadモデル動画をもとにした話し合いを行うことで、何をどのように伝えれば良いか、ゴール場面でのやり取りの内容や表現の仕方を具体的に考えることができる。
- やり取りの場面で他者評価を取り入れることは、自分の改善点を知ることができるとともに、自分の良さを認め自信につなげることができる。

## 7 今後の課題

- ・児童の実態や状況に合った場面設定を考えることが必要である。
- ・相手意識がALTになることが多いので、ALTとの連携・協力が大切になる。
- ・児童は表現面に注目しがちなので、内容面での気づきを促す学習課題の設定ができるように考えていく必要がある。

## 8 引用・参考文献

- ・文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』
- ・文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編』
- ・文部科学省『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校外国語・外国語活動』(東洋館出版社)
- ・水谷泰三(2017)『小学校新学習指導要領改訂の要点』(株式会社 文溪堂)
- ・直山木綿子(2017)『初等教育資料11』(東洋館出版社)
- ・直山木綿子(2021)『小学校外国語教育の指導と評価』(文溪堂)
- ・菅正隆(2023)『英語授業の「個別最適な学び」と「協働的な学び」』(明治図書出版)